

# 令和7年度 研究のまとめ

(第24集)



校内研究の取り組みを通して

I. 校内研究の概要	1
II. 令和7年度研究内容	
1 子供理解とアプローチ	2
2 授業づくりと ICT	12
3 生活に生きる国語・数学（算数）	5
4 全体研修 講師 都留文科大学特任教授 佐藤比呂二先生	6
5 成果と課題	8
6 今年度のまとめと来年度に向けて	8

山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校

## 校内研究の取り組みを通して

校長 金丸 学

現在社会はDXやAI等の進化やグローバル化など急速に進展し、予測困難な時代を迎えている。家庭状況や障害のある子供たちも多様化し、様々な課題が山積している状況である。

このような社会では、単なる知識の習得ではなく、自ら考え、判断し、他者と協力して課題を解決する力が求められている。こうした背景から、学習指導要領改訂では「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が重視されるようになった。ICT機器を活用しての教育も日々変化し、個別最適な学びと協働的な学びについてよりクローズアップされているところである。

しかし、教員不足から教員の質の低下が危惧され、すべての教員の生涯における研究・研修は必須である。この時代に生きていく子供たちを教育していくためには、教員自身が学び続け、それぞれの資質や能力を向上させることは不可欠である。そして学校教育において、一番大事な授業力の向上に繋げなければならない。今年度は、教員一人一人が効果的な指導方法を考え、目の前にいる児童生徒に目を向けて、いかに発達を促すことができるのかという課題と向き合い、各自が必要と思う研究テーマを挙げて実践した。教育専門職として、知識・技能の向上を目指していくためにPDCAサイクルを回しながら授業改善を図ることで指導の方向性が見えてきた。

### ○生活に生きる国語・算数（数学）

「聞く・話す力」を育成するための実践は、教材工夫（ニュースの聞き取り、カード学習）や環境整備（机配置変更）、聞く姿勢を身に付け、これらを組み合わせて行われた。結果として、児童生徒の行動に変容が見られ、聞くことの価値を実感する場面が増えた。しかし、障害特性を踏まえた提示方法や時間配分、言葉選びの工夫は不可欠である。聞くことが「よかった」と感じられる経験を積み重ねることが、意欲を高める鍵である。

### ○授業づくりとICT

遊びの指導は、生活に根ざした総合的な活動であり、各教科の内容を統合する学習形態である。計画時には児童の実態を見取り、生活に即した題材設定を行うことが重要である。ICT活用や教材情報の共有は、限られた時間で質の高い授業を実現するための有効な手段でこれからも研究を積み重ねていくことが大事である。

### ○子ども理解とアプローチ

教員間で課題認識を共有し、肯定的な声かけの重要性を再確認できたことは大きな成果である。一方で、発達段階に応じた対応の難しさや、個別事例を深める仕組みの不足が課題として残った。今後は、事例検討や振り返りを通じて、より具体的なアプローチを共有することが大事である。

◎本研究を通じて、児童生徒の「聞く・話す力」や生活に根ざした学びを支える指導について今後は、

- ・「何を伝えるか」を明確にし、視覚・聴覚を活用した提示を継続
- ・子どもが「聞けた」ことを評価し、意味を実感できる指導を重視
- ・ICTや教材情報の共有を進め、授業づくりの質を高める

これらの気づきを意識しながら、児童生徒の特性や実態にあった学習指導に生かしていきたい。

今回の研究において、都留文科大学 佐藤北呂二特任教授様をはじめ、特別支援教育・児童生徒支援課黒山主幹・指導主事様ご感謝申し上げます。

## I 校内研究の概要

### 1 研究主題

「児童生徒一人ひとりを伸ばすための指導方法を探る」

### 2 研究主題設定の理由

本校では、令和5年度、6年度にかけて「特別の教科道徳」について研究した。2年間にわたり校内研究を実施することにより、「特別の教科道徳」について知り、「各教科等を合わせた指導」の中で道徳的な視点をもって授業実践を行い、授業改善をしていくことができた。また、その中で児童生徒の実態に合わせた、遊びの指導や生活単元学習の指導方法についても考えることが出来、特別な教科道徳についての研究は一区切りとなった。

昨年度末の今年度の研究希望のアンケート結果では、「国語、算数・数学」に関する研究、ICTに関する研究が多かった。その他に令和8年度に始まる県の書式に関連した指導と評価に関する意見も多かった。また、研究の方法として個人研究と寄せられた。しかしながら児童生徒数が少ない本校では、教員数も少なく過半数を占める意見というものはなかった。また、教員数が少ないために一人の教員がCTとなって受け持つ授業数も多い。校務分掌を複数兼ねる者も少なくない。そのために授業づくりや教材づくりにじっくり取り組むための時間の確保も難しくなっている。そこで今年度は、教員一人一人が効果的な方法を考え、目の前にいる児童生徒に目を向けて、いかにしたら発達を促すことが出来るのかという課題と向き合うために各自が必要と思う研究テーマを考え、校内研究の場を使って、指導の改善につなげたいと考えた。

### 3 研究目標

- ・児童生徒一人一人に適した指導方法を明らかにし、共通確認する。
- ・教育専門職としての知識や技能の向上

### 4 研究計画

- ・研究期間 1年計画

### 5 研究方法

- ・一人一研究、日頃指導の疑問点や困っていることなどの問題解決を目指す。
- ・研究内容に類似点のある者同士でグループを作り研究する。最高3グループとする。

### 6 研究日程

研究予定日	内容
5月 1日(木)	第1回全体研究(次回までに自分の研究テーマを決めて提出)
21日(水)	第1回グループ研究会
6月 3日(火)	第2回グループ研究会
18日(水)	第3回グループ研究会
7月10日(木)	第4回グループ研究会
7月23日(水)	第5回グループ研究会
9月17日(水)	第2回全体研究会(中間報告会)(予定)
11月 5日(水)	第6回グループ研究会
12月10日(水)	研究のまとめに向けて
1月21日(水)	研究のまとめに向けて
2月20日(金)	第3回全体研究会研究報告 指導主事招聘

## II 研究実践

### 1 子ども理解とアプローチ

① グループのまとめに向けて、出された意見は次のとおりである。

○成果

- ・普段先生方がどんなところに課題を感じているか、子どもをどう見ているかが知れてよかった。
- ・子供にどのようなアプローチがいいのか、毎日いろいろな試行錯誤をしているが、それを改めてOPPシートに書き留めたことで、振り返ったり次に活かしたりできた。
- ・毎朝保健室にくるSさんに、安心基地としての保健室という意味を意識して対応するようになった。

●課題

- ・子供の事例を考える上で、その子に関わっている先生方と深めた方が深めやすかったかと思った。
- ・OPPシートでやっていくという形だと、だれか事例を挙げて追っていった方がやりやすいのかなと思った。
- ・Sさんの話や副校長の話聞いて、肯定的な声かけが重要だと小低の児童への指導に活かそうとしたが、生活年齢や理解力によって、発達段階的に通用しないということもあった。

② グループの成果と課題

本グループに属する一人一人のテーマは「生徒の基礎疾患（主にてんかん）について理解を深める」「他害・自傷がある児童への対応、指導法」「包括的性教育について」「愛着障害のある生徒の理解と指導」「子供理解とは」と多岐にわたる。それぞれの教師が置かれた立場に応じて、子どもをどう理解し、アプローチ・指導していったらよいか個人研究を行った。それぞれの教師がもつ児童生徒観やこれまで積み重ねてきた実践に応じて異なる視座があり、その語りをグループ全体で共有したことで色々な角度から生徒理解を広げることができた。また学部を越えてのグループ編成となったことで、生活年齢に応じて声かけの仕方や指導法が異なるという気づきがあった教師もいた。子ども理解の視点が広がったことはひとつの成果と言える。

反面、「事例を深めたい」というニーズに対しては、普段その子にかかわっている教師集団（学部・学年など）で事例検討のような形で研究をした方が、子ども理解や指導法について深めることはできたのかもしれない。まただれか特定の児童生徒に絞って、その生徒について、担任、学部主事、教務主任、管理職、養護教諭の立場からテーマごとに迫るやり方も有効だったかもしれない。

### 2 授業づくりとICT

① 各自の研究のまとめ

A 遊びの指導で何を教えるか

(研究の目的)

各教科等を合わせた指導の形態である遊びの指導の目的を再確認するとともに、ベースとなっている教科等の検証をしたい。また、各教科等を合わせた指導をどのように捉えて教えていけばよいのかももう一度考えてみたい。

(研究の方法)

- ・学習指導要領や手引き書および遊びの指導に関する書籍を使った文献研究
- ・遊びの指導授業づくりのために参考となるような実践報告の検証
- ・授業づくり

(研究成果)

㊦ 文献研究の成果

遊びの指導の具体的内容は、平成元年度版学習指導要領解説の「各教科の具体的内容」のなかで、主には生活科の中で取り扱われている。ほか、「体育」「音楽」「図画工作」「国語」でも取り扱われている。各教科の具体的内容の1段階に遊びの指導との関連性が高いものが多いのである。これは、1段階の児童はまだ知的発達が未分化であり、遊びの中で様々な教科の内容を統合して学習していくことが妥当であることを物語っている。この頃の考え方は、私にとって非常にしっくりくる考え方であり、私の指導実践の根底に常にある考え方である。しかしながら時代は変わり、今日では遊びの指導を計画・実践・評価するとき各教科の目標および内容を踏まえることが強調されている。全日本特別支援教育研究連盟（全特連）の理事長である名古屋恒彦氏は、各教科等を合わせた指導が、「各教科等の寄せ集め学習」になってはいけなと述べている。また、名古屋氏は「各教科等を合わせた指導は、各教科等に分けられる以前の未分化で総合的な生活活動を内容としています。しかしだからこそそこには生きた形で豊かな各教科の内容が含まれているのです。指導要領にある各教科の内容に学びつつ、そのような生きた各教科の内容を、未分化な生き生きとした生（なま）の生活の中から見いだせる目を、教師は養わなければなりません。」と述べている。遊びの指導を計画するとき、まずは児童の実態を見取り、何を身につけさせたいのかを考えて題材を設定していくことがまず大前提で、児童の生活に根ざした遊びを設定することで、教科の内容がそこに反映されているということが大切だと感じた。

#### ① 実践

遊びの指導は小学部全児童で行う。実態は感覚遊びの児童から簡単なごっこ遊びが出来る児童まで様々である。そこで、1学期は全員が一緒に楽しめるバルーン遊びやわらべ歌遊びを取り入れた。2・3学期は分校まつりを見据え簡単なごっこ遊びを取り入れた。ごっこ遊びの内容を区切り、体を使って遊んだり、空気砲で風を感じたりすることで全員が無理なく楽しめるように工夫した。また、毎回授業の始めには絵本の読み聞かせやスケッチブックシアターを取り入れることで、児童が遊びの指導の授業に見通しと期待感をもって取り組めるようにした。授業を組み立てるときに、まずその授業(単元)のテーマを決め次に計画を考える。そして教材準備を行った。授業の準備は労力のいるものも多いが、児童一人ひとりが主体的に遊べるようにするためには、必要な準備であった。

### B ICT 機器の有効な活用 子供理解と支援方法

#### (研究の目的)

近年、学校現場での ICT 機器の活用が進められている中、今年度担当している児童や授業において有効な活用方法について、子供の理解と支援方法の検討も含めながら考えた。

#### (研究方法)

一人1台持っているタブレット端末を活用しながら、国語・算数や図画工作などの学習場面での活用について検討し実践を行った。その後朝の会での進行にも取り入れつつ児童にとって有効な活用方法について探った。

#### (研究成果)

図画工作での活用について、活動写真をタブレット端末で撮り、振り返りなどで使用することや手順表などを手元に出せるようにするといった案を実践してみた。しかし、感触遊びや絵の具などの授業内容では、タブレット端末が汚れや故障の危険性があること、児童の実態として振り返りの時間を少なくする必要があること、自分でタブレットを操作しながら制作することの難しさなどがありあまり有効ではなかった。

国語・算数での活用について、タブレット端末への興味は高く意欲的に取り組む姿勢は見られた。学習へ向かうモチベーションとしてもとてもよかった。ただ、依存度が高くなってしまい、タブレット端末以外での活動への切り替えができないことが多々あった。事前に使用しないことを伝えても切り替えが難しかったので使用を中止した。ただ、休憩時間に国語・算数で使用したソフトを自分で取り組んでいる様子もあったので、活動の内容自体はよかったのではないかと考えている。使用することで一定の効果は得られるが、朝の会での使用についても依存度が高くなりすぎて

しまうことがあったため、事前の確認など細かく行っていく必要はある。その中で取り組むべきこと、やってほしいことにきちんと向かえるように整えていくことが大切であると考えた。そのうえで必要ないとなれば使わないことも検討してもよいのではないかと考えた。

#### C タブレット端末を活用した取り組み（発語の少ない児童に対して有効な支援として）

（研究の目的）

発語の少ない児童に対して、自分の思いはあるが周囲に伝える手段が限られていた。そこで、自分の思いを伝える手段の一つとして ICT（タブレット）を活用して自分の思いを伝える手段が増えてほしいと考えた。

（研究方法）

「DropTap」（音声搭載のコミュニケーションアプリ）を使用して、自分の気持ちを選択肢から選んだ。まず、操作に慣れるために、日常的に使用の機会が多い、朝の会・帰りの会での進行に取り入れた。その他にも「ごじゅーおん」アプリの使用、カードを使用して 2 語文で伝える方法も取り入れた。

（研究成果）

本研究では、児童がアプリの使用に慣れる過程と、その効果について検討した。児童は、最初は操作に戸惑いながらも、自分の使いたい項目をタップできるようになった。しかし、アプリを実際に使い始めるまでの過程は複雑であり、児童は職員室からタブレットを借り、教師にパスワード解除を依頼する必要があった。この手順は児童にとって効率的ではなく、使い始めるまでに時間を要した。

また、児童は自分の思いを伝える場面で、好きなぬいぐるみのある教室まで教師を連れて行ったり、服のクマのイラストを指差したり、写真カードを用いて中庭で遊びたい意志を伝えるなど、様々な方法を駆使してコミュニケーションを図っていた。

その結果、新しいコミュニケーション手段を試みたものの、実際に児童の生活に広く定着させることはできなかった。しかし、これらの方法を通じて、会議の進行がスムーズになったり、周囲の児童や教師に意志が伝わったりしたことで、児童は自信をもつことができた。

本研究を通じて、児童がタブレットやホワイトボードにカードを貼る、ひらがな入力を行うなど、多様な表出手段を獲得できたことは大きな成果である。今後は、これらの方法をより効果的に定着させるための工夫や支援策の検討が必要である。

#### D 職業・家庭（家庭分野）における集団指導の中での個に応じた指導の工夫

（研究の目的）

本校で職業・家庭科（家庭分野）の指導を担当して 4 年目になった。今年度は 10 名の生徒に一斉指導をすることになった。理解度や生活経験に幅がある生徒たちに対して一斉指導の中でどのように個に応じた指導ができるか工夫したいと考えた。

（研究方法）

月に 1 回程度、OPP シートを使って授業の振り返りを行い、様々な指導方法を試した。具体的な指導の工夫としては、文字への興味関心や理解度に応じてプリントを 2 パターン用意する、座席配置を工夫して画面や教師に注目を促す、消費者教育の中でいつも使っている物に着目させる、一人ひとりが参加したくなる買い物シミュレーションの商品選定などを行った。

（研究成果）

これらの工夫により、授業に参加しやすくなった生徒がいる一方、次の 3 つの新たな課題が見えた。そもそも座学中心では参加が難しいので、実習やシミュレーションを多く取り入れる必要がある。生徒が分かって動けるようにするためにより具体的に説明する必要がある。前年度までに実施した活動でも、生徒が入れ替わっていることを考慮して、配慮事項を一から整理する必要がある。これらは、当たり前のことではあるが、複数年にわたって同じ教科を担当する上で、おろそかになりがちだった。研究を通して丁寧に振り返ることで、基本に立ち返ることができた。

## ① 研究グループの成果と課題

本研究グループでは、各自でOPPシートへの記入を通して各自の実践や授業研究を深めるとともに、5回程度グループ研究会として情報共有を行った。全ての会で全員参加することは難しかったが、必要に応じて紙面での情報共有を行った。そうすることで、各自の実践や研究内容が他の参加者にも伝わるように努めた。

この情報共有を行うことで、各自の実践を深めるだけでなく、様々な授業への広がりにもつながった。例えば、「タブレット端末を活用した取り組み（発語の少ない児童に対して有効な支援として）」に関する情報共有や対象授業で使えるようなアプリの検討をしたことをきっかけにして、対象以外の児童及び授業で同アプリを試すことにつながった。その中で、同アプリを休憩時間に使う児童が表れた。また、同アプリを使って文字と写真の一致や撥音・拗音等の仮名遣いの学習への活用が見られた。これらの学習は、各児童の文字への興味関心を高める効果もあったと感じている。

本来であれば、放課後の時間にぎくばらんに授業づくりについて常時語り合える職場であることが理想の環境だと考えている。しかし、授業準備や会議、分掌の業務に追われて、実際には語り合う時間を十分に取ることが難しい。このような現状を打破するために、今回のように研究の時間を使って少人数で授業について語り合える場が設定できたことは有意義だったと感じている。

## 3 生活に生きる国語・数学（算数）

### 1, 児童生徒のもつ課題

児童生徒の課題として、「授業をしているときに説明していても話が聞けない」「勝手に話し始める」、「意見を求めた時などに話ができない」などが挙げられた。その課題となる部分を伸ばすための国語・数学（算数）の授業内容を考え、それぞれの実践や気づきを話し合った。

### 2, 実践の経緯

「聞く」の定義として

- ① 内容を聞き取ろうとする力
- ② 聞く態度や姿勢を身に着ける

の2点を考えた。

- ① の「聞き取る力・話す力」を伸ばすための国語数学の教材として、中学部の3グループは以下のような実践を行った。

- ・ニュースを聞き取り、メモを作成する
- ・スリーヒントカードを使って、説明されている人物や物などを選択する
- ・「動詞」「色」「絵」「単語」などのカードを使って、意思表示をする

その他に、中学部では多目的教室の机の配置を横長ではなく縦にすることで、より前への意識が向きやすくする環境整備を行った。

小学部の児童では、自分の名前の書き取りや、わかりやすい内容の絵本の読み聞かせとその内容についてのやりとりを行った。

また、②の態度については、国語数学の授業だけでなく、授業全体を通じて、話を始める前に聞く姿勢を取らせることの大切さをグループ内で共有した。その方法として、

- ・「話すよ」「聞いて」など言葉での注意喚起を行う
- ・「聞きます」「静かに」のカードを提示する
- ・昨年度からの姿勢の取り組み（「ピンピタマン」）の継続
- ・生徒が静かにするまで話さずに待つ

などが挙げられた。小学部でも注意喚起や話すタイミングは同様に意識して実践することとした。

それぞれ実践を報告し合う中で、教材で困ったときにAIを利用することや、教材作成の際に使用しているイラスト教材などの情報交換を行った。

小学部の事例では聞く力も重要ではあるが、知識として言葉や数を習得することでより豊かに生活できることに重点を置いたため、教材の作り方の話のほうが参考になるところが多かった。

当初課題と捉えていた「聞く・話す力」は改善してきていると実感している。それは、前でも話そうとする人がいるとその方向を見たり、静かになったりと、生徒の行動に変容が見られているからである。中学部段階では、見本となる友だちの影響があったり、聞いているとできるという経験が積み重なって、聞くと良いことがあるという実感が、「聞こう」という気持ちを引き出しているからだと思われる。小学部でも、聞いていることで発表できるという経験から、限られた場面ではあるが聞くことに集中する様子が見られた。

### 3. まとめ

「聞く力」が付いたとしても、児童生徒のもつ障害特性を忘れてはならないという意見が出た。特性に対する配慮として、先ず提示する側である大人が「何を聞かせたいのか」をしっかり意識し、説明の所要時間や提示する位置、言葉選びなどに工夫をする必要がある。聞こうと思えるように視覚（イラスト）や聴覚（ことば）で提示し、子どもたちに「聞いてよかった」「話したい」と思わせる経験を積ませていくことで、聞こうとしたり話そうとしたりして「聞く力」「話す力」がついていくのであろう。そのために、今後も「何を伝えるのか」と意識して、指導を継続することが大切だとグループでは考えた。

一方、子どもの立場からすると、「聞いた」ことで行動を変えたことが「聞いた」評価として伝えられると、「聞く」ことの意味が理解しやすく、聞いたほうが良いことがあると実感できるのではないか。

今回グループで話し合うことで、普段感じていた問題点が共通理解でき、その問題点の指導や評価を子どもの行動で捉えたと、教員も子どももわかりやすいということが一致した意見となった。

## 4 全体研修会の記録

令和7年12月10日

① 目的 児童生徒の指導に当たり困りごとや悩み事をみんなで相談し、講師の助言を聞くことで解決策や指導法のヒントを探る。

② 講師 都留文科大学 特任教授 佐藤比呂二先生

③ 研修当日の流れ

午前は事例対象となる小中学部それぞれ1名ずつの見学、午後は研修会で教員間での意見交換と講師の佐藤比呂二先生からの講評

④ 研修会

<事例1：小学部5年>

**課題**・否定的や攻撃的な発言やふるまいによるコミュニケーションになりがちである。

発言：「〇〇できないなー！」「やめろー」

行動：朝の会時、手を挙げていても、最後に当てる。特定の児童に対して、舌を出す。

蹴る真似をする。など

※自分から仕掛ける（原因を作る）が、結果的に自分が被害者になったと訴える。

・自分中心に物事を考えて、注意されたときは、過大に解釈して、教師や親に伝える。

**教師の対応**

- ・その都度、本人が気づくように指摘している。
- ・仲良くできたときなどよい関わりができたときは、児童を称賛する。
- ・気持ちが落ち着いたときに、本人に分かりやすく説明する。

・帰りの会で行っている「今日の振り返り」でよいことを言おうと助言している。

※最近、「今日は仲良く過ごす」「今日は悪いことは言っていないね」など、意識して過ごすことができるようになってきている。が実際は、悪口を言ったり、意地悪な行動が見られたりする。

#### アドバイス

言うことを聞かないと認めてもらえないという感覚を持っていることもある。自分が無条件で認められている実感がないと、他人に優しい気持ちが向かない。先生が厳しく言われた子どもの気持ちを代弁するが、Hを認めることも大切。攻撃している子がしんどさを感じていることがある。

うれしい・楽しいを言語化して本人に伝えることで、本人が自分の気持ちに気付いて共有できることがある。悲しい・悔しいなどのネガティブな感情を言語化して受け止めていくことで、本人の気持ちを育てる。しんどさや辛さを受け止めてもらい、付き合ってもらう中で、他人の「悲しみ」を感じられるようになっていく。時間がかかるが、信じて関わるのが大切。「つまらなかった」とネガティブなことを先生に言えるのは、言っても良いと思える安心感がある証拠。本人からアイデアをもらう（どうしたらいい）というやり方もある。

教員が一方的に支持するだけでなく、頭ごなしの否定もなく、温かい環境になっていてよいと思う。マイナスな表現をやりきって精神的に卒業できればと思う。その反応をする本心の理由が解消されないまま、思春期に行動障害となるほうが心配。くぐってきたほうが大人になってから良いのでは。

<事例2：中学部2年>

**課題**・自分の意にそぐわない時や注意を受けた時等に、教師に暴言を吐いたり、力いっぱい手を上げたりすることが目立つ。その際、ガラスや自分の周りの物を叩いたりして怒りをぶつけることも多い。

・授業中の離席が多く（別室に行く）、参加を促すとそのことが命令に感じるのか、「うるせえ」手が出てしまうことが多い。

・活動を上手にできない自分にジレンマを感じてやりたくない気持ちもあると思われる。

・友達に対する幼稚で執拗ないたずら。相手の反応を楽しむ様子も。

#### 教師の対応

※そもそも本生が家庭内で否定的かつ乱暴な言葉かけを日常的に受けていることが背景にあると考えられる。自分を守るための手段として、暴力を振るうようになったか。

・教師はなるべく命令形の表現は避け、感情的にならずに冷静に対応をする。

・こちらが感情的にならずに冷静に対応する。

・活動に対してなるべく命令するのではなく、「やる？やらない？」等の選択肢を与える。

・活動内容やレベルを柔軟に変更し、「できた」と思える気持ちを大切に指導する。

・不適切、または適切な行動を示した絵カードの提示。

・一度怒りのターゲットになると、その教師を見るだけで反射的に手が出るため、対応する教師を変更する。

#### アドバイス

先生にやるのは、本人がくぐらなければいけない一過程。現在はわかっているけどできない状態。これから、自分で選ぶ力が大事。本人が前向きにとらえられる選択肢を用意し、役立つ自分・価値ある自分を実感すると、変わってくる。離席、教室から出るのを許容し、自分の意志で、自分を育てることが大切。出ていく理由を考える。戻そうありきではない。自分の意志で戻ることが大事。行動の思いをくみ取り、代弁する。先生が自分の気持ちをわかろうとしていることがわかると落ち着くと思われる。友だちとの関りでは、後で嫌だったよと伝える。お仕事のことで褒められることで、心に残り続ける達成感が得られる。存在意義、自分の価値が実感できることで、変化する。自分のやっていることが、つながると変わる。働く力の源として、活動の先の人の笑顔がある。係活動は先生以外の人との関わりでの仕事。

東田直樹くんは赤ちゃん叩こうとするけど、叩きたくはない

⇒人間関係が狭くて深いと、他害はその人に向かう。したくないという思いを受け止め、どうしたらいいのか一緒に考えよう

⇒折り合いをつける力：全面的に受け止めること、受け入れることは違う。

終わった後に子供に何が残るかが大事

ネガティブな感情を受け止める、言語化する

よりよい自分を作りたいと思えば、自分で手立てを考える。反応を引き出すために、行動をする。これまで、悪いことをして大人がきた。

落ち着くまで誠意をもって関りたい ⇒パニックになっても大丈夫を経験させたい

量が満たされて、質が変わる。やってもらうときは理由を伝えてやってもらう。終わった後の子供の姿が大切。出ている言葉と本心をとらえる。支えどころ。「役立つ自分」を感じるのが大切。

不安なところは徹底的に、支える。ただし、最低限でよい。大切なことは、子ども自身が願いを持つこと。新しい環境での子供の姿が、成長を教えてくれる。子ども自身に願いと納得があれば、不安や葛藤に打ち勝ちやり遂げる。

「自己肯定感の源」。大切なのは「生きていていいと思える自信」。HOWではなく、WHY（なぜするのか）が大切。

## 5 成果と課題

今年度は、「児童生徒一人ひとりを伸ばすための指導方法を探る」という研究主題に沿って教師一人ひとりが必要と考える副題を設定した。その研究したことをOPPシートにまとめる形式の個人研究とした。そのうえでテーマが近いもの同士で学部の垣根を越えてグループを作り、それぞれの研究を報告し、意見交換や研究内容を共有する形をとった。研究後の感想の中でも、「それぞれの研究したいことを研究できてよかった」「同じ関心ごとに集まり話せたことは、子供のとらえ方や教材づくりのコツなど話せてよかった」「個人研究は自分がしなくては進まないし、好きなことが研究できたのでよかった」などの感想があがった。教師一人ひとりが実践と向き合いその中で今自分が困っていることに目を向けて研究に取り組むことができた。

その反面、学部やグループで共通のテーマで研究したほうが研究の方向性も定まり、やりやすかったのではないかと。研究を深めるということ考えると、学部ごとに同じテーマで話し合うほうがより深いところまで研究ができたかもしれない。また、OPPシートの形式も日々の研究内容の記録にはよかったが、まとめを記入する方法をもう少し検討する必要があったのではないかななどの課題があげられた。

## 6 今年度のまとめと来年度に向けて

本校は平成12年に開校し、研究のまとめの第1集を発行した。その時の研究主題は「個々の実態に即した教育課程をめざして」ということで、以来平成21年度までの9年間、同一の研究主題で研究を行っている。その後も研究主題はその時必要なものをテーマに据えて変化してきている。しかし、研究方法は学部ごとに副題を設けてのグループ研究となっていた。

個人研究という形式は開校以来の試みであった。個人研究は一人ひとりが意識をもって研究し、知識とすることができたのではないだろうか。

来年度の方向性としては、令和8年度より導入予定の県内統一の指導計画の書式について研究したいという意見があがっている。

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	生徒の持つ基礎疾患について理解を深める (てんかん発作を中心に) てんかん基礎講座 (オンライン) を受講する 学んだことをグループで共有し、指導助言をいただく
--	---

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	7月23日 (水) てんかん基礎講座 ①受講	てんかんとはどんな病気か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ てんかんの種類</li> <li>・ 発症機序</li> <li>・ 治療について</li> </ul>
②	8月1日 (金) てんかん基礎講座 ②受講	てんかんの介助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 窒息予防</li> <li>・ お風呂時の介助</li> <li>・ 意識消失時の介助</li> <li>・ 徘徊時の対応</li> </ul>
③	8月7日 (木) てんかん基礎講座 ③受講	てんかんの治療 — 薬物療法 —	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「てんかん発作」とてんかん</li> <li>・ てんかん薬の選択</li> <li>・ 治療の目的</li> <li>・ 知的障害の患者への薬物療法</li> </ul>
④	8月8日 (金) てんかん基礎講座 ④受講	てんかんの治療 — 外科療法 —	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ てんかんの治療方針</li> <li>・ 薬剤抵抗性のてんかん</li> <li>・ 手術の実際と効果</li> </ul>

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	8月14日（木） てんかん基礎講座 ⑤受講	てんかんに合併する 精神科的障害の治療と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかんに精神症状を併発する要素</li> <li>・合併しやすい精神症状</li> <li>・抗てんかん薬と精神症状</li> <li>・症例</li> </ul>
⑥	8月20日（水） てんかん基礎講座 ⑥受講	てんかんと発達障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかんと発達障害の合併</li> <li>・神経発達症とは</li> <li>・知的障害とてんかん</li> <li>・知的障害、発達障害を持つ人々に 向けたてんかんに関する教育プログラ ム（PEPE）</li> </ul>
⑦	8月29日（金） てんかん基礎講座 ⑦受講	てんかんと学校生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかんと生活のQOL</li> <li>・小児のてんかんと学校生活</li> <li>・学校での生活管理</li> <li>・発作時の対応マニュアル</li> <li>・てんかんを持つ子供への対応</li> </ul>
⑧	月 日（ ） 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわか り、どのようにまとめ ましたか	<p>障害のある子供たちが持つ基礎疾患を改めて学ぶことで、様々な身体的な負担や 心理的な負担があることがわかった。</p> <p>養護教諭は児童生徒の心身の健康を司るとされているが、子ども一人ひとりの背 景にある健康課題をしっかりと把握したうえでアプローチしていきたいと感じた。</p>		

研究前 あなたの研究テーマはどのような計画で進めればよいでしょうか	【包括的性教育】 文献研究…「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」、「0歳からはじまるオランダの性教育」（←障害児の性教育の記載あり） その他、ネットの情報も収集し、本校の児童生徒へのアプローチ方法について模索する
--------------------------------------	---

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月18日（水） 実践したこと 調べたこと	「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」（UNESCO）…読み始めたけど、カリキュラムを作るためのガイドなので難しい。 「0歳からはじまるオランダの性教育」…半分ほど読んだ。0歳から19歳まで、主に学校での教育について書かれている。	・オランダでも、すべての人が先進的な考えをもっているわけではない。むしろ、宗教的な理由でタブー視する保護者も少なくない。だからこそ、学校教育が重要で、カリキュラムや教材も豊富に用意されている。多様性を認め、相手を大切にする教育。 ・次は、障害児の性教育
②	7月23日（水） 実践したこと 調べたこと	「0歳からはじまるオランダの性教育」…障害児の性教育。 自立＝民主的な社会を支える「市民」：誰からも強制されることなく、自分自身の選択や判断のうえで行動し、同様に他者を尊重して、ともに社会を築く活動に積極的に参加する人。	・知的障害児の教育は、健常児の幼児教育のためのメソッド・教材などを、言葉使いを変えて利用する。 ・自閉症の子どもたちには具体的なものを見せたり明確な言葉使いをする。特にプライバシーや体の接触についてのルールは幼児期から反復して学習する必要がある。 ・幼児期の教育メソッドが確立されているから、それを利用できるのか？ ・甘えたい気持ちと、身体接触のルールの理解の境界線？
③	7月30日（水） センター研修：学校現場における男女共同参画教育研修会 「生命の安全教育の教育現場での実践について」 NPO法人エンパワメントアフロッキー	包括的性教育＝人権教育 「人と人とは対等である」 「みんなちがってみんないい」 メッセージ ・あなたはあなたのままでいい ・じぶんのからだはじぶんのもの 講座の内容は、主に暴力（身体的、言葉、精神的）から自分の身を守る人に育てる、暴力にあっってしまった時に身を守る方法支援について（被害側）	・過去にこどものいたずらとされていた、スカートめくり、カンチョウ、パンツの中を見せる、服の上から触ることなども性暴力 ・本校の児童生徒が、加害者にならないために、どのような指導をしていくか？ （生命の安全教育は人権ベースではないため、包括的性教育ではない） <b>教員の態度が児童生徒に直接的に投影される</b>

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
④	9月17日(水) 実践したこと 調べたこと	体の接触について (R児) 女性教員の柔らかい部分を触る→注意される→反応が嬉しい→さらに触る 腕などはOKとするが、胸を触った場合は淡々と注意をする。しかし現段階では、それもまた嬉しい。	昨年から時々思い出したように左記のループあり。感触を楽しんでいる状態から、反応を楽しむようになり、最近は「触ってはいけない」を確認をしているのかも感じることもある。このままの対応で良いか？
⑤	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
⑥	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわかり、 どのようにまとめましたか	<p>身体的接触→確認をとる</p> <p>「着替えるよ」「パンツぬぐよ」←伝えるだけでは×、本人が理解できる方法で伝える 指導者ではあるが、人対人という意味では対等。押さえつけと感じる対応は×</p> <p>☞</p> <p>私たちは、指導しなければという意識が強く、時として押さえつけるような指導をしてしまうことがある。人権を意識して子どもたちに接することを心掛けたい。</p> <p>知的障害のある児童は、対応されたのと同じように、鏡のように表現方法を身につけることが多い。 保護者だけでなく、私たち教員が「自分も他人も大切にする」態度で接することで、児童生徒も「自分も他人も大切にする」態度を身につけ、実際に他人を大切にすることを心を持つことができるのではないだろうか。</p>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	「他害・自傷がある児童への対応、指導法」 ・グループ内の職員で事例を共有。意見交換や助言をいただく。 ・参考書やインターネットを活用し、同じような事例があるか調べる
--	--

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	5月20日（火）？ 実践したこと 調べたこと	Sが活動の切り替えが難しく、近くの壁や担任を殴る蹴る等の他害が見られた。これまで安全を確保するため、まわりに何も（誰も）ないところへ移動させクールダウンを図ったが、Sを座らせ手を握り指導をした。	担任から初めて指導されたこともあり、目をよく見て状況や担任の気持ちを感じ取っているようにも見えた。指導をすると、そのあとは離席したり他害や自傷をすることはなく落ち着いていった。
②	6月13日（金） 実践したこと 調べたこと	膝の上に乗りたいという目くばせやジェスチャーがあり膝に乗せた。しばらくすると、担任の顔や頭を狙って頭突きをしてきた。頭突きをすると「膝は乗れないよ」と立ち上がった。	このときは、何回かこのやりとりを行い、落ち着いていった。しかし、別日に同じことがあったが、落ち着かなかった。
③	6月23日（月） 実践したこと 調べたこと	バスに持参していたことから、家庭からSが好きな膝掛けを学校にも持参してもらい、気持ちの安定を図ることとした。	場合によっては膝掛けがあっても不安定なときがあった。しかし、落ち着いて過ごすことが増えた。
④	月 日（ ） 実践したこと 調べたこと	※6月下旬ごろ～怪我のため、本児童の指導担当が変わる時間が増えた。7/7～1学期いっぱい傷病休暇となった。	授業の始めと終わりの挨拶は、教師の膝や離席するのではなく、自分の椅子に座るようにし、始めと終わりを意識させるなど、クラスの教員全員で指導の方向性を確認した。

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	9月12日（金） 実践したこと 調べたこと	最近睡眠時間が短いためか不機嫌になることが多く、朝から大きな唸り声を上げて、壁や教師を蹴るなど不安定だった。担任2人がかりで、頭を守り、下半身を揺らすなどしながら刺激を入れ、対応した。	あまりに不安定なときには、男性教員が一人で対応するのも、児童、教員ともに危険が伴うときがある。
⑥	10月14日（火） 実践したこと 調べたこと	給食前に不安定になった。給食のメニューカード（写真）を見せると、徐々に落ち着いてきた。	状況や本人の気持ちによるが、次に何をするか、具体的に提示すると見通しをもつことができる。可能な限り、具体物を用いた方がよいと思われる。
⑦	10月22日（水） 実践したこと 調べたこと	”帽子をかぶると外に行ける”という認識があり、授業等で外に出られない場面でも、ロッカーに入っている紅白帽を被り行こうとしたり、友だちの紅白帽を見つけて被ることもあった。そのため、クラスの児童全員の紅白帽の保管場所を教師の教材室へ移動し、”お願い”のジェスチャーをして渡すようにした。	不安なときには難しいが、教師にお願いして紅白帽を受け取り外に出ることが定着した。”お願い”のジェスチャーも自然に表現できるようになった。
⑧	12月3日（水） 実践したこと 調べたこと	気持ちの切り替えが難しく、次の活動（国語算数）をする教室へ移動しても不安定な状態が続いた。いつも国語算数で取り組んでいる洗濯ばさみを渡したところ、自分の指や顎を挟み刺激を入れたことで落ち着き始めた。	不安的なときに他害や壁にぶつかる等の行動が目立つ。ほかの刺激（今回の場合は洗濯ばさみ）を取り入れることで気持ちが切り替わったのではないか。
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわかり、 どのようにまとめましたか	OPPシートにまとまることで、どのような対応や指導が効果的だったか、そうでなかったかが、振り返りやすくなった。研究だけでなく、課題が見つかったときには、同じクラスの教員で話をし、指導や対応をその都度考えることができた。今回、同じ研究グループで自身の課題について深められたかは少し難しかったように思う。日々の出来事を通し、その場その場で担任同士で話し合うことの方が多かった。		

研究前 あなたの研究テーマはどのような計画で進めればよいでしょうか	子供理解とアプローチ ～観点別学習状況の評価～
--------------------------------------	----------------------------

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	試してみたこと 田村学著「学習評価」 を読んだ。	授業こそが、学校で行われる教育活動の中心を担い、最も多くの時間を割り当てられている。 具体的な学習活動に即した評価基準は、授業で目指す子供の姿である。
②	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	小嶋悠紀氏の「発達障害・グレーゾーンの子が笑顔になる！成長する！声かけ・対応メソッドの資料を読み返した。	「こだわり」に制限・制止をかける場合の優先順位条件 ① その行動は本人や他人の学習を妨げているか ② その行動は活動への参加を制限しているか
③	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		③ その行動は社会的行動を制限しているか ④ その行動は他人に危害を加えているか ⑤ その行動は長い期間その子に影響を与える可能性があるか
④	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		上記の内3つ以上当てはまった場合 制限対象とする

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	7月23日(水) 実践したこと 調べたこと	ドクター本田の「じいろ子育てを 読んだ(山梨日日新聞)	「AだとBになっちゃうよ」といった否定的な脅しのニュアンスをもつ言葉はなるべく控えて、「AだとBができるよ」という肯定的な視点を子どもに示す習慣をもつようにしてください。
⑥	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	出会いはタカラモノ ～子どもから教えられた ことばかり～ 都留文科大学 佐藤比呂二 特任教授	1 「問題行動」の裏にある「ホントの願い」に気づく ① いわゆる問題行動＝「困った子」なのか？ ② 大人が問題にしている → 大人の側にある枠の中に納まらないから ③ 必ず理由がある ④ 一旦、「枠」を捨て、「なぜ？」と考える。
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		⑤ 隠された「ホントの願い」に気づくとき ⑥ 「困った子」は「困っている子」と実感 2 「ホントの願い」とは子ども自身も気づけていない願い くみ取られ→支えられ→実現(体現)でき →初めて気づける 略 6 折り合いをつける力
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		① 「自分の意志や意図」と「相反する相手の意図や現実」のぶつかりあい ② 折り合いがつかずパニックや自傷… ③ まずは全面的に受け止める…ただし、「受け止める」と「受け入れる」は区別する。 『「受け止める」ことは「受け入れる」こととは違う。「わかろうとすること」であり、「言うことを聞いてあげること」ではない。

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑨	9月15日(月) 実践したこと 調べたこと	にじいろの未来に寄り添う ～発達障害児が自分らしく生きてい くために大切なこと～ (令和7年度 山梨県障害児地域療育 支援事業地域支援研修会)	1 5歳の女の子 子育ては母親の愛情が大事と聞いた母 親が、なるべく多く一緒に遊ぼうと思っ て積極的に関わっていると5歳の娘が「お 母さん、何も話さないで見てくれるの も『好き』っていうことなんだよ」と 言った。
⑩	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		2 本当の自立とは？ ① 自己決定力(自律スキル) 自分でできることとできないことを 判断できる。 ② 相談力(ソーシャルスキル) できないことについて他の人に援助 を求める。
⑪	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		3 「分離教育」廃止…賛成？反対？ 分離教育廃止と言うことは車イスの子 に立って走るように言うことと同じ
⑫	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		4 発達障害支援からみた義務教育の問題点 ① 平均周辺7割向けのカリキュラム ② マイノリティの権利保障が不十分で ある ③ 子ども自身による選択肢がほとんど ない

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑬			5 共生のポイント ① すべての人に対して ・多用な視点があることを知る ・異なる立場の人を疎外しない ・異なる立場の人に不要な攻撃をしない ・自分の視点を他者に強要しない
⑭			② 社会的弱者を守るため ・法制度を整備する 6 親からの相談 「ASDあり、小5から不登校の中1の女子がいます。親の支え方、保護者ができることを知りたいです。」
⑮			回答 不登校のお子さんに対して親が唯一できることは、親と一緒に遊ぼうとする。 →断られたら引っ込む。 親は干渉(命令・指示・禁止)してはいけない。
⑯	12月10日 (水) 実践したこと 調べたこと	令和7年度 ふじかわ分校 全体研修会  都留文科大学 佐藤比呂二 特任教授	・ネガティブな感情を大人は受け止める。 ・長期・短期の肯定的な見通しを伝える。 ・生徒がわざと悪いことをして相手の反応を引き出すのは、良いことをしたときは大人は来ないけれど、悪いことをしたときは大人が来るから。

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑰			<ul style="list-style-type: none"> <li>・量が満たされたとき質が変わる。</li> <li>・出ている言葉と本心は違うかも。</li> <li>・「願い」と「納得」があれば「不安」や「葛藤」に打ち勝ちやり遂げる。</li> <li>・「自己肯定感の源」は「何かができるようになった自信」ではなく「生きていていいと思える自信」</li> </ul>
⑱			
⑲			
⑳			
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわかり、 どのようにまとめましたか		<p>・研究テーマとして最初は「学習評価」を考えましたが、生徒の実態から、それよりもS君への対応法として「生徒理解」へと方向転換した、色々な文献等を読んだり、講演会を聞いたりが、普通高校で30年間近く勤務してきた生徒に対する「処罰感情」を抑えることができない自分がいました。しかし、「君がここにいるだけでもうれしいんだよ」と伝えることが大事であることを学びました。</p>	

<p>研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師からの指導に対して暴言や暴力で返してしまう生徒へどのように対応したらよいか。</li> <li>・家庭での支援が難しい生徒へ学校としてどんな支援の方法があるか。</li> </ul>
--	---

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月2日（月） 実践したこと 調べたこと	特別活動でホールの掃除をする際に、モップの柄でたたかれた。それほど痛くはなかったが、少し大きめに痛かった。別の教師が「ほら痛がってるよ」S「やってもいい?」「いけないね」と柔らかく対応した。	今日は軽めだったから我慢できたが、強い時には我慢できずに強く指導してしまいたくなる。やってはいけないことは分かっているがやってしまう、言ってしまうのではないかとと思う。どうして物に当たったり、人に当たったりしてしまうのだろう。
②	月 日（ ） 実践したこと 調べたこと	下校前の帰り支度をしている際にipadで音楽を聴きながら歌っていた。タオルが落ちていたのでS先生が「しまったら」と声をかけると、強くS先生の胸を殴る。S先生に執着する様子が見られたので代わりに対応に入った。	下校準備の段取りが本人なりにあって、こだわっている。それを邪魔されたと感じて反発し、殴ったように感じた。本人が自分の世界に没入しているときに声をかけると荒れることが多いと感じる。
③	月 日（ ） 実践したこと 調べたこと	youtubeで米澤先生の動画を視聴した。	愛着の形成は親との間でだけできるのではなく、「いつでも」「誰とでも」形成可能なのだという視点。ネガティブな感情にアプローチするのではなく、小さなポジティブな感情を積み重ね絆を結んでいく。
④	月 日（ ） 実践したこと 調べたこと	下校前に別の授業で採った野菜で作ったなす味噌を差し入れた。（予定にはなかった）献立係の仕事が終わっていなかったSくんは「食べたい」のに係を先にやろうと言われて、ホワイトボードを投げたり、ドアを殴る蹴ると荒れた。	下校前の準備は本人なりの段取りがあり、そこへ強く惹きつけられるなす味噌が来てしまったために混乱したし、係をやろうの声かけも受け入れられなかった。

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	集団の授業をしているとふらっと教室を出ていなくなる。トイレにいったり、教室でアルバムを見たり、新聞紙の剣を作っていたりしていることが多い。個別の授業だと離席や教室を出ていくことはない。	集団の授業だと自分のやることや居場所があいまいになりがち。また内容によって難しさを感じた際にふらっと出て行っているような印象を受ける。
⑥	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	S先生が対応をchatGPTにSくんへの対応を尋ねてみた結果を学部で共有した。	参加を促すと暴力をふるうことについて、「命令」に感じた時の過敏性がある可能性。・命令口調や圧を避ける。・選択肢を事前に提示する。放置するのではなく、事前に声をかけて構ってほしい気持ちを満たすなどの対応を共有した。
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	米澤先生「事例でわかる愛着障害」を読む①	安全基地—安心基地—探索基地の関係。安全基地；ネガティブな感情から守ってくれる場所。家庭でネガティブな感情が生じてても安全基地機能が働かないと、学校や他の場所であふれ出ることもある。
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	米澤先生「事例でわかる愛着障害」を読む②	安心基地；その人といると気が楽、落ち着く等ポジティブな感情を味わう場所。Sくんには教室や授業などのやるべきことがあったり、指示されることも多い場所になっていて、事務室や保健室が安心基地になっていないか。
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわかり、 どのようにまとめましたか	<p>家庭での愛着形成に問題があっても、学校などでも積み重ねていけることがあることがわかった。問題行動のある児童生徒に対応する際には、その背景に思いを馳せて「なぜ」と考え続けることが大事だと改めて思った。また職員集団が問題を共有し、保健室なども含めて分校全体で統一した指導感で対応に当たることも大事だと感じた。</p> <p>・全体研究会で講師でいらした佐藤先生からの助言 「本人が一番困っている」「表面的な言葉通りにとらない」「本人に決めさせる」「本人の目的・願いはなにか」⇒「あなたは大切な存在」というメッセージを伝える。</p>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器を活用する前にその授業における対象児童の実態を把握することで活用できるかどうかやどのような方法が効果的かを考えながら試していく                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行った後振り返りを行い、次回へ活かす。</li> <li>・ 情報を収集して実践へ活かせるようする。</li> </ul> </li> </ul>
--	--

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月3日 (火) 実践したこと 調べたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ そもそも低学年にICT機器を効果的に使用できるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような使い方でも効果は必ずあると思う。</li> <li>・ とりあえずいろいろと試してみる。</li> </ul>
②	6月18日 (水) 実践したこと 調べたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語、算数の時間にiPad内に入っているひらがなの学習アプリを使用してみた。</li> <li>・ 図工でやっている様子を写真や動画にとって振り返りに使おうとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iPad自体は興味があるので楽しみながら取り組んでいた。</li> <li>・ 低学年にはそもそも振り返りが難しい</li> <li>・ 自分で言葉を調べるなど能動的にできるとよい</li> <li>・ canvaを使ってみる</li> </ul>
③	8月28日 (木) 実践したこと 調べたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援学校におけるiPadの活用事例を調べてみた。</li> <li>・ iPadを使用する必然性。(動き、調べるなど)</li> <li>・ コミュニケーションツールとして活用できないか検討中</li> <li>・ 朝の会でも使用していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必然性がないと続かない。</li> <li>・ 意識的に使用できる機会を作ってみる。</li> <li>・ 発語が少ない子には活用できそう。</li> </ul>
④	9月17日 (水) 実践したこと 調べたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルール等があってもなかなか守れない。依存性が高くなってしまふなどの問題点が増えてきた。</li> <li>・ iPadを朝の会で使用する予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習に支障がでるのであれば使用しないほうがよい。</li> </ul>

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	11月27日(木) 実践したこと 調べたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会での活用をいはじめた</li> <li>・今後の活用について、図工では汚れる可能性から、工作での使用を検討中。自立活動での使用を検討中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面で使用してみて再度検討していく。</li> <li>・無理に使用しなくてもよい場合もある。</li> </ul>
⑥	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマはどの ようなことがわかり、どの ようにまとめましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用にはルールの確認と徹底が必要。</li> <li>・活用することで一定以上の効果はあった。</li> <li>・授業や活動の内容次第では使用しないほうがよい場合もあった。また約束が守れずできないとなることも多いので初めから使用しないと決めてもよいと感じた。</li> </ul>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	月1回程度、授業の振り返りを行い、様々な指導方法を試す。
--	------------------------------

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	5月30日（金） ・家庭科ガイダンスの まとめの中で、誰が どの家事をしているか 答えさせた。	・プリントを2パターン用意し、文字が読 めない生徒や過度に文字に気持ちを向けて しまう生徒に対しては、文字の代わりに家 族写真を添付した。 ・提示するスライド（TV画面）は文字を 減らした。	・7割程度の生徒は、文字での選択肢提示 で回答可能。2・3年生は、昨年度よりも回 答できる生徒が増えた。 ・家族写真で回答しやすくなった生徒もい る。そもそも座学中心が厳しい生徒がい いた。
②	6月6日（金） ・座席の固定化 ・授業を逸脱する生 徒への対応	・SさんがTさんの近くに行くと嫌がるこ と（「今日、バス？」）をしつこく話すた め、座席の固定化を試みる。が、前日の美 術での座席と混乱して、椅子を机にぶつけ ようとする。 ・授業内の活動はやりたがる。	・学年担当の対応だとしつこく問題行動が 出るので、対応する教員を副校長先生にお 願いすること、座席は写真カードで一目で 分かるようにすることを確認した。 ・タイミングを見て活動に誘うことで、教 室に戻れることはあった
③	7月11日（金） ・座席（教室の向 き）の修正	・中学部のドラゴン教室の配置変更に伴 い、座席変更。個別対応必要な2名（1年 WK、2年SS）は後方でSTを配置。1年TN は中盤で必要に応じて前方または後方から 教師の支援を入れた。最前列中央に2年 AA、WKを配置した。	・横への広がりがない分、CTから全体を 把握しやすい印象。2年AA,WKの様子を見 てCTから声掛けがしやすい。1年TNは、 隣に教師がいない分、前方の教師を見るこ とが増え、不規則発言が減った。
④	7月23日（水） ～8月25日（月） 9・10月の指導案及び スライドの作成	・消費者教育は、修学旅行やそれに関わる 生単の指導と連動し、買い物と電車利用の シミュレーションを通して金銭の理解 （使ったら減る、予算立て、都度払いと前 払い等）を目指す。	・今年度、中学部の授業に2時間しか入っ ていないため、他の授業での学びを家庭科 指導につなげたり、家庭科指導での学びを 日常生活の指導に活かしたりすることが限 定的な印象（STに入っている先生がやっ っている様子だが）。

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	9月12日(金) 借り物競争形式で 「いつも使っている 物」を持ってくる活 動	「消費者教育」が家庭分野にあるが、指導 が難しいと感じている。今回は、「いつも 使っている物」をきっかけに、物の入手方 法には買う以外の方法があることに気づか せたいと考えた。	「いつも使っている物」がピンとこない生 徒が約半数いた。重度の生徒が教師と一緒 に図書室のお気に入りの本を持ってくるの を見て、図書室の本を選ぶ子が複数いた。 また、その本を授業中に読みたくて混乱す る子もいた。
⑥	9月19日(金) 買い物シミュレー ションを通して、予算 に合わせた買い物を 学ぶ	昨年同様、菓子の箱などを集めて、買い物 ごっこの形式で実施。自力での計算が困難 な生徒が多いので、予算を超えた時はお金 が足りないことを教師から伝えて、本人が 買う物を調整した。	昨年経験した生徒は、予算を超えても声掛 けで円滑に調整に応じた。 初めての生徒の中には、興味がある商品が ないためか活動に参加できないこともあつ た。→各自の好みに合った商品を準備す る。
⑦	10月31日(金) 実践したこと 調べたこと	栄養に関する学習で、ポスター作りを行っ た。その際に、食材カードを使うことで、 文字が難しい生徒でも参加しやすくした。 また、理解度が高い生徒には、スローガン を考えることで、キーワードの定着を図っ た。	2年前から使っている食材カードのため、 2・3年生にはなじみがあり、参加しやすい 様子だった。スローガンの検討は、1名の み積極的に参加していた。全体で検討させ るには、さらに工夫が必要だと感じた。
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマはどの ようなことがわかり、どの ようにまとめましたか		<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学中心では参加が難しい→実習やシミュレーションを多く取り入れる。</li> <li>・生徒が分かって動けるようにする→より具体的に説明する必要がある。</li> <li>・生徒の入れ替わりに応じて毎年配慮事項を整理する必要がある。</li> </ul>	
上記3点は、当たり前のことではある。しかし、複数年にわたって同じ教科を担当する上で、おろそかになりがちだつた。研究を通して丁寧に振り返ることで、基本に立ち返ることができた。			

<p>研究前 あなたの研究テーマはどのような計画で進めればよいでしょうか</p>	<p>発語の少ない（分かりにくい）児童に対して、効果的にタブレットを使用し、伝える力を高めたい。様々なアプリを試しながら効果的なものを使用していきたい。（Droptap）</p>
--	---

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月5日（木） 実践したこと 調べたこと	・帰りの会で初めて、「drop」を試してみた。	・使い方をすぐに覚えて、以前使用していた、紙での進行表を用いて、タブレットを操作していた。最後のあいさつでは、タブレットを使用せず、口形模倣をきちんとしていた。（タブレットはいやだったのか？）
②	6月18日（水） 実践したこと 調べたこと	・朝の会、帰りの会で「drop」を使用した。	・使い方になれてきた半面、連打する場面も見られた。本人なりにいろいろ試している様子が伺える。タブレットの音声に加え、自分の話を言うことも意識できていた様子。
③	7月2日（水） 実践したこと 調べたこと	・振り返りの場面でもdropを活用してみた。	・課題としては、本人自身の感情をどのように表現していったらよいか。
④	7月10日（木） 実践したこと 調べたこと	・振り返り時の発表時に今日の授業を紹介した後、感想も発表しているが、否定的なカードを選択しがち、次回からなくしたらどうなるかを試す。	・このような発表方法でよいのか、もっと彼女の表出方法を試すことができるのか？

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	8月27日(水) 実践したこと 調べたこと		夏の研修で学んだこと、 ①手を使うことは非常に有効な手段である ②自分の伝えたいことが相手に伝わったこと
⑥	9月16日(火) 実践したこと 調べたこと	使い方に慣れてきた反面、ipadで写真を見ていて、話をする場面が見られた。	iPad使って円滑になって、本来の目的は達成することができた。その反面、余計なことをして、人の話を聞かないなどの問題が発生した。
⑦	9月29日(月) 実践したこと 調べたこと	自分の気になったぬいぐるみを教師に伝え、借りることができた。	自分の本当に欲しいものを身振りや口語で伝えることができたので、無理にタブレットにたよらなくても、場面で使い分けをしていくことがよい。(現状教師にパスワードを解除してもらわないと、自分でタブレットを操作することができない)
⑧	10月22日(水) 実践したこと 調べたこと	気になったぬいぐるみを教師に伝え、借りることができた。	
研究後 あなたの研究テーマはどのようなことがわかり、どのようにまとめましたか	<p>今回の研究を通して、生徒の思いを発信するためのツールとしてタブレットを使用した。実際には、生活への般化はできなかったものの、タブレットを使いこなし、朝の会の進行をスムーズに行うことができた。本人にとっての、タブレットを使ってスムーズに進行させたこと、タブレットを使うことによって周りの人にとっての分かりやすいことがよい影響になった。</p> <p>・また、先生方からの意見を取り入れて、新しいアプリを試したり、イラストカードを使用し2語文を作って伝えたりと手段を広げることができた。今後は、これらの方法を試す中で本人が</p>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	文献研究：ネットで調べてみよう。県立図書館に本を探しに行こう 遊びの指導のねらいを確認、ベースになっている教科は？合わせた指導について再確認 実践・反省：おもしろい実践があったらやってみよう。何をしたいか考える。 まとめ (研究日：1学期4回、2学期5回、3学期2回)
--	---

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月1日(日) 実践したこと 調べたこと	参考文献探し：県立図書館の本は古い ネット：秋田県教育委員会(特別支援学校 遊びの指導ガイド) 遊びの指導について(群馬県総合教育セン ター) 文部科学省(知的障害のある児童生徒のた めの各教科について)	生活科がベースで、その他の各教科の遊び と関連したところのねらいが反映される。 学習指導要領総則解説をもう一度読んでみ よう。
②	8月8日(金) 実践したこと 調べたこと	参考文献を読む。 〈千葉大学教育学部附属 特別支援学校の 「遊びの指導とは」〉	・遊びの場を考える時何もない「余白」を 残す。そうすることで、子供が自分で思い ついたことを遊び始める。 ・単元を作る順番 ①単元のテーマを決める。 ②単元計画案を作る。 ③教材などの準備。その確認 ねらいの設定は具体的な行動をねらいにす るは避けて少し抽象度を高めたことをねら う。
③	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	学習指導要領の教科の視点でどう位置付く のかという考え方と少し違うかも。でも、 私にはじっくりくる実践である。 あとがきで「時代がもともとめていることと、 時代を超えて普遍的に大切にしたいことの 調整」ということがかかれていた。	千葉大附属支援の考え方は「ねらいではな く願いをもって自ら夢中になって遊びを支 える。
④	8月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	2・3学期の 指導計画指導計画作成 1学期は1年生が取り組みやすいように、感 触遊びに多く取り組んだので、2学期は ごっこ遊びをテーマに計画を立てる。	ごっこ遊びの中で、みんなが取り組める内 容を計画できるか。

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	8月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと	教材作り	
⑥	2学期 実践したこと 調べたこと	実践	<p>並行して文献研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの指導の手引き (平成5年文部省)</li> <li>・学習指導要領に基づく指導と評価の一体化～児童生徒が本気で打ち込める授業 (単元) づくり生活単元学習を中心に (2023. 7. 25 名古屋恒彦)</li> </ul>
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		<p>遊びの指導が各教科等の寄せ集め学習になってはいけない。子供たち一人ひとりが主体的に取り組める状況を作ることが大切。どの教科内容を教えるかではなく、どんな力を身につけさせたいのかを考えることが大切。それは学習の達成状況の評価を行うときに「どんな力が養われたか」を考えると、当然、各教科等別に評価が出来るから大丈夫という結論に達した。</p>
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマはどの ようなことがわかり、どの ようにまとめましたか	<p>今まで実践してきたことが覆ることはなかった。未分化な児童には教科内容をきっちり分けて学習させることよりもそれらを統合して、根底にある身につけさせたい力をねらいにしていくことが大切だと再確認した。</p>		

研究前 あなたの研究テーマはどのような計画で進めればよいでしょうか	<b>「聞く力を高める！」</b> どのような「聞く姿」を目指すかを明確にして、物理的な環境、声掛け、提示の仕方などの様々な面から授業改善を行う。
--------------------------------------	--

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月3日(火) ○ネットで調べた中から↓ ・ゲームで「聞く」といふことがある」体験をする。 ・話す前に最後まで聞くよう確認する。	・映像など視覚教材の使用(動画はよく見るとの引継ぎあり) →動画やパワポでも下を向いている様子が見られる。 ・返事がない／クイズでも回答意欲が低い／指名する前に答えてしまう …etc	・聞いて理解するかは後にして、まずは「聞く姿勢」(形)が大事。 ・「今は聞く時間」カードを試行する。 ・ドラゴン教室の座席を、横1列から向きを変え、幅の狭い3列にする。
②	6月18日(水) ・「今は聞く時間」カードを試行(16日～)。「ピンピタマン」と気づいて意識する様子もあった。 ・座席は自分たちで模様替えさせたい。	・校外学習でも、車内放送を聞いたり、街並みを見たりといった様子がありなく、前についていくだけになりがちだった。外への興味そのものが低い。直前に促すと良い。 ・椅子を机に近づける、不要なものは後ろへ、などはやはり有効。	・颯太さんと晴人さんの、鬼のやりとりは、実はお互い関わっておらず、一方通行で演じているだけ。 ・分校は人間関係が変わらないので、授業で揺さぶることも必要。
③	7月10日(木) (※個々に) 実践したこと 調べたこと	・6/23(月)朝の運動の時間にドラゴン教室の座席配置変え。教師陣からは概ね、前が見やすくなった、注目しやすくなったとの声。	・「ピンピタマン」は昨年度でかなり意識づけできているので「聞く」をプラスする。 ・注目してほしい時は、言葉で促すだけでなく、生徒が気付くまで待ったり「聞く時どうするんだっけ?」と言ったりしてみる。
④	7月30日(水) ・文字を読み上げ(すぎ)てしまうNさん対応 兼 情報量の精選として、文字をなるべく削減。覚えてほしいキーワードのみに焦点を当てた。	・保健の授業では、概ね画面に注目出来ていた。 ・自分たちの手洗いの動画は興味をもって視聴し、養護教諭の判定も受け入れられた。判定の理由も聞いた様子があった。 ・やはり、視覚と併用すると注目度向上↑。 ・終業式で「1学期頑張ったことは？」に的確に発言できた生徒がいた。(特にKさん) ・言葉で注意、制止、望ましい行動を伝えても、好ましくない行動を止められない(Kさん)	・国語の4人Gでは、穴埋め形式でニュースを聴き取ることで、できるようになってきた。 ・聞くの良いことがある、聞かないと分からなくて困る、という状況を設定して聞く意識を高めた。

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	8月27日(水) ・センター研(音楽)で学んだこと：「歌に動きを重ねる」ことで、リズムやタイミングが揃うようになる。→周りへの意識向上、合わせることにつながるかも!?	・ただ「聞こう」というだけでなく、他者へ意識を向ける必然性のある場面を仕組んでいきたいが、全体指示で顔を上げて聴く姿勢とつながるかは不安。	・体育で指示を聞いて動く内容、自立活動でマナーなど取り組んでいきたいとのこと(篠原T)→日常・適宜の指導でなく、時間を区切った指導はやはり有効そう。 ・「学習率」という視点を初めて知った。
⑥	10月22日(水) ・修学旅行では、ラッシュの電車、人が行き交う中でもはぐれず行動できた。「順番」の声掛けで、列になれた。 ・聞くことはやはり難しいが、近くの教員が適宜補足することで、駅の表示など意識を向けられた。	・全体に向けて話をする時、意識を向けて欲しいので待つのだが、誰かの意識が向いた時には他の生徒の視線がそれてしまう。全員が集中することは難しいので、タイミングを見計らって進行しなくてはならない。	・全体が前に集中できなくてもよい。CTが全体に対して意識を向けるよう促し、適宜STが声掛けをしたりCTの指示を個別に伝えたりすることで補完するとよい。 ・隣の友達の様子を見本として、聴く意識が高まった生徒もいる。
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマはどのようなことがわかり、どのようにまとめましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴く姿勢をとることは、生徒が自分の行動を調整することでもある。</li> <li>・話しながら「聴いて!」と言う前に、「これから話すよ。」「聴く姿勢になれてるかな?」と予告してから話し始めるという、順番を変えること。</li> <li>・多くの生徒が外に意識を向け始めている段階。興味の幅を広げていくことも同時に大切。</li> </ul>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	話す・聞く力をつけるための取り組み →生活に生きる国語や数学の取り組み →自立活動や体育等の集団授業
--	--

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月3日(火) 実践したこと 調べたこと	・Sさんへの暴力的な事案への対処方法。	・AIに相談してみる。指示よりも選択肢を与えること。教室を離れても完全に放っておくことはせず、戻ってきやすいように声掛け。
②	6月18日(水) 実践したこと 調べたこと	・3ヒントカードの取り組み。イラストカードの人物の①職業②服の色③持っている物の3つのヒントを聞き取り、カードを選ばせる。Sさんは2つの要素を聞いて理解できた。	・いま話を聞く時間だと予め話をすること、意識をさせることが大切。 ・「やりたい人ー？」の声掛けが刺激になることも。小さい声も友好。 ・ドロップスの活用。
③	7月30日(水) 実践したこと 調べたこと	全体で話す時に、少し生徒に緊張感をもたせるため、厳しめのトーンで話すように。聞く姿勢などは生徒自身が気付いて直せるような声かけを意識。	・国語で2要素(赤い丸)から3要素(大きい赤い丸)を入れて聞く力、理解、語彙力を高めたい。 ・ごっこ遊びで役を与えることで他児とのかかわりがもちやすい児生も多い。関わっているように見えて自分本位の関わりも見られる。
④	2学期～ 実践したこと 調べたこと	・朝の会や帰りの会の先生の話の場面では、毎回聞く姿勢や教師の顔を向くことを意識させている。わかりやすい特定の場面で姿勢を整える習慣がついてくると良い。	・毎日決まった場面で姿勢を整えることは生徒にとってわかりやすく、定着しやすかった。教師が前に立つと自分から聞く姿勢を整える生徒もいて、友達を見て姿勢を改める生徒も見られた。

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	国語 実践したこと 調べたこと	大きい赤い丸、小さい青い四角など、3要素の言葉を聞き取り、イラストから選択させた。最後の図形は確実に聞き取れたが、大きさや色は曖昧になることも多い。何度か繰り返し伝えたり、選択肢を狭めると正解にたどり着きやすい。	正しいものを選ぶために、よく聞こうとする意識は見られている。語彙力の少なさも聞こうとする姿勢につながらないことも考えられる。
⑥	体育 実践したこと 調べたこと	体育のポッチャでは、友達の投球時に無関心になりがち。ハイタッチをしたり、拍手をしたりと応援を促した。	自分のことが済めば後は良いという生徒が多い。チーム戦にして友達の投球に興味を示す生徒もいた。友達の活動姿を見る姿、応援する姿も育てていけたら良い。周囲に興味を示すことが、話を聞こうとすることにつながるよ。
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
⑧	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわか り、どのようにまとめ ましたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で話を聞く以前に、言葉を記憶して意味理解をすることに課題がある生徒もいるため、教師側の工夫も大切になる。イラストやシンプルな言葉で見える化しておくことで自ら行動に移すことができたら良い。</li> <li>・動画ネイティブな生徒たちなので、どの授業でも動画は食いつきやすく、印象に残りやすく指導に有効的だと感じた。</li> </ul>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	1. 対象生徒の実態把握 (生活環境調査も含め) 2. 生活の中で必要と思われる力の洗い出し (課題設定) 3. アプローチ法の検討 4. 授業実践 5. フィードバック
--	---

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	5月22日 (木) 実践したこと 調べたこと	・なかなか話を聞けないという課題点について、「ニュースを聞こう」という活動を取り入れた。	・穴埋め式にしたことで、ポイントで聞き取ることができた。 ・少し難しいと、イライラしてしまう生徒もいるので、難易度を下げ、「聞く」姿勢作りにポイントをおくようにする。
②	6月15日 (日) 実践したこと 調べたこと	・白石正久氏講演会 & グループディスカッション参加 「発達の煌めき」	・1歳半、4歳、9歳の節。それぞれの年代の発達の節がある。 ・節ごとの「質的転換期」。 ・発達、成長とは・・・矛盾を乗り越えること
③	6月18日 (水) 実践したこと 調べたこと	・単元「ねえ、どれがいい？」終了 ・選択する、理由を考える、伝える、をねらいにどれがいいかを選ぶ	・回数を重ねるにつれて、選んだ理由を自分のことばで考えてつたえられるようになってきた。
④	7月12日 (土) 13日 (日) 実践したこと 調べたこと	ポーターズ早期療育 初級セミナー受講 応用行動分析について学ぶ	・目標に向けて、スモールステップを立ててフィードバックをする。 ・絵に描ける行動のことばで伝える。例：走るな×→歩く○

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	8月19日(火) 20日(水) 21日(木) 実践したこと 調べたこと	高等学校「情報」免許法認定講習 情報科教育法Ⅰ	・インストラクショナルデザイン (ID)について学び、見通しのもてる授業設計について実践的に学ぶことができた。 ・活動予定表+今どこなのかというマークをつけるとより見通しがもてやすい。
⑥	国語 「ニュースを聞く」の取り組み	・日本の首相、天皇皇后、大谷翔平など、多くの人知っているであろう人物を知らないなど、興味関心の幅が狭い。 ・時事的関心をもってもらいたいと願い、話題になっていることや興味をもってもらいたいニュースを取り	・1年間ほぼ毎回取り組むことで、ニュースを聞く力がついてきた。 ・初めは「??」という反応しかなかったが、続けることで、時事的関心が高まり、新聞記事を持ってきて「このニュース聞きたい」とリクエストする生徒が出てきた。
⑦	月 日 ( ) 実践したこと 調べたこと		
研究後 あなたの研究テーマは どのようなことがわかり、 どのようにまとめ ましたか	<p>・ なるのためにこの学習をするのか、ゴールがどこで、現在地がどこなのかを生徒の実態に合わせてわかりやすく提示することで、生徒の学習への意欲を引き出せるということがわかった。実態によって、上記のことを理解することが難しい生徒に対しては、教師がその意識をもつことで、生徒の実態に焦点が当たった授業設計ができると感じた。</p> <p>・ 生徒の心理発達に応じて、授業の組み立てを固定化する(例：①漢字②ニュース③メインの活動)ことで、安定して授業に向かえることがわかった。</p> <p>・ 「聞く力」は聴力上の問題がなければ、ほぼ意識の問題なので、聞いてほしい時は、いかに「聞きたい」「聞くといいことがある」と思わせるかだと思った。また、過剰な刺激を取り除くなど、実態に応じた「聞ける環境づくり」も大切だということがわかった。</p>		

研究前 あなたの研究テーマは どのような計画で進め ればよいでしょうか	<p>ー生活に生きる国語算数ー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 苦手分野を把握し、底上げする。</li> </ul> <p>太田ステージによる発達検査により苦手な領域を確認し、国語算数の課題設定を行う。</p>
--	--

	日 付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
①	6月2日（月） IR君が対象。太田 ステージの検査実 施。	用途での物の選択ができないことが 分かった。大小や形の判別は得意。 シンボル表象期か？動作語の意識が 弱いのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用途理解の効果的な方法を探る</li> </ul>
②	6月13日（金） 動作の絵と文字 カードとのマッ チング課題の実施、 動作を交えて実施	絵カードを使って選択すると、教師 の行動を真似してカードを取ること が多かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動作を行うことで選べるものも あった</li> <li>・ 動作と文字のマッチング先行で学 習を進めると理解しやすい</li> </ul>
③	6月16日（月） OCに太田ステー ジの検査実施。	用途、大小理解課題クリア 初歩的概念形成期 指先の巧緻性低い→ホワイトボード （A4）を使ってのなぞり書きは楽し んで取り組めた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指先を使う課題多めに設定</li> <li>・ 絵本の読み聞かせは、クイズ形式 の質問をしながらだのとってくるよ うだ</li> </ul>
④	6月30日（木） カウント課題 なぞり書き	カウント課題：4以下だと指さしな がらの確認可、集中できる ホワイトボードでのなぞり書きは文 字にも有効	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お絵描きで話が膨らませられる。 絵を描くことにこだわってしまう傾 向がある。文章化にももっていきな いかとは思いますが、テンションが上 がりすぎることもある</li> </ul>

	日付	困り事や悩み事、 試してみたことなど	わかったことや感想 次の疑問点などなんでも記入
⑤	7月14日(月) 数数え 名前のマッチング	感情のコントロールが難しい →絵カード(疲れた、静かに)を見せて、落ち着かせる。言葉で注意を すると、更にイライラが悪化する傾向がある。	・文字のマッチングができれば、文章化は50音のキーボードが使えないか ・指先、手のコントロールが難しい
⑥	7月16日(水) なぞり書き 数	・絵をかいて話を聞く ・ホワイトボードを使ってなぞり書き ・4以下の数 ・洗濯ばさみ、ねじ課題 ○鉛筆の持ち方、指先が使えない	・ホワイトボードを使ったなぞり書きは、書き方を注目してよい。 ・指先の活動は嫌がらずに取り組んでいる。
⑦	10月 算数：具体物を使った数 国語：線引き・スタンプ・名前	○算数の教材で感覚遊びをしようとするので、タイミングよく止めることが難しい。 ○気持ちの安定度合や、意欲に左右される	・狙いは変えず、興味をもちやすい教材がいくつかあるとよい。キラキラ、カラフル、適度な重さ、見た目のわかりやすさが大事。 ・発見した文字を○で囲んだ
⑧	10月16日(木) 算数：具体物を使った数 国語：線引き・スタンプ・名前なぞり・絵本読み聞かせ	○意欲が低い時は、作業を簡単にし、絵本を読むことで気分転換をした ○絵本を読んだ後に、再度名前も文字を探していくと、見つけることができた	・本人の動きや、興味を示したことをある程度受け止めることが大事。 ・言葉かけは少なく、やってほしいことを伝えるほうが有効。
研究後 あなたの研究テーマはどのようなことがわかり、どのようにまとめられましたか	文字や数字への興味はあるが、精神状態に大きく左右されるため、環境を整えたり、興味を引く教材を複数用意し、精神状態に合わせて目先を変える工夫が大切であった。確実な3までの数でカウントダウンをするとタイミングを合わせられるようになったり、一緒に数えたりできるようになった。名前の「ち」「な」「つ」の文字を様々な授業の中で気付いてみんなに教えようとしたり、更に読める文字が増え『りんごの「り」だね』と理解が広まったりした。授業だけでなく、学校生活全体で関連付けて取り組むことで定着する。		